

(ご注意)

- ・この用紙は、機会で処理します。この用紙を記入する際は、枠内にはきりぎりしと記入してください。また、本票を折したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付き ATM でもご利用いただけます。
- ・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換に預かり証を必ずお受け取りください。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたお名前、おなまえ等は、加入者様と通知されます。
- ・この受領証は、払込の証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙
3万円以上
貼付



この場所には、何も記載しないでください。

全国草原再生ネットワークが目指す未来

草原の価値が見直されつつあります。

農業や生活のための資源としての価値だけでなく、環境保全、環境教育、福祉、農村の文化、生物の多様性など、様々な観点からたくさんの人たちが草原に関わりを持つようになってきました。農業従事者、研究者、観光業者、あるいは一般市民など、色々な人たちが「野焼きができなくなっている」、「草原が減ってきている」という危機感を、それぞれの立場で感じています。しかし、草原の価値が多様であるほどに、それをとりまく様々な課題も生じているのです。

そうした草原がかかえる問題を明らかにし、日本各地の草原を有する自治体間の交流の輪を広げ、連帯を密にしていくという目的のもと、1995年、大分県久住町において初めての「全国野焼きサミット」が開催されました。その後、「全国野焼きサミット」は「全国草原サミット」と改称され、あわせて、市民レベルでの話し合いや情報交換も「全国草原シンポジウム」として続けられてきました。

各地で草原に携わる人達が、7回にわたるサミット・シンポジウムを通じて共有したことがあります。それは、草原を保全し、再生につなげていくためには、全国で草原再生活動を行っている（あるいは行おうとしている）個人・団体の連携を通じて、草原の持っている価値・意義を再評価していくことが不可欠であるということです。

私たち「草原再生ネットワーク」は、草原の地域を越えた連携を通じて、大きく・多様な草原の価値を未来に渡って享受していく、持続可能な社会の形成を目指しています。

全国草原サミット・シンポジウムの開催状況

- 第1回 1995年 大分県久住町（久住高原）
- 第2回 1997年 島根県大田市（三瓶山）
- 第3回 2000年 北海道小清水町（小清水原生花園）
- 第4回 2001年 山口県秋芳町（秋吉台）
- 第5回 2002年 熊本県久木野村（阿蘇）
- 第6回 2003年 長野県諏訪市（霧ヶ峰）
- 第7回 2005年 岡山県真庭市（大山・蒜山）
- 第8回 2009年 広島県北広島町（芸北）

入会方法

全国草原再生ネットワークの趣旨に同意いただける方は、添付の振込用紙に必要事項をご記入の上、郵便局にて、年会費をお振込み下さい。

	個人会員	団体会員
年会費	3,000円	10,000円
特典	<ul style="list-style-type: none"> ■全国草原ネットホームページへの情報登録 ■会員用メーリングリストでの情報交換 ■全国草原ネットのニューズレターを送付 ■全国草原ネットの総会における議決権 	

※ 入金確認後に会員として登録いたします。

※ 会費会計年度は毎年4月1日から3月31日までです。入会時に一括納入とし、途中退会時の返金はいたしませんのでご了承ください。

※ お振込料は当ネットワークで負担いたします。



全国草原再生ネットワーク

<http://sogen-net.jp/>

- 【会長】 高橋 佳孝（近畿中国四国農業研究センター）
- 【副会長】 山内 康二（(財)阿蘇グリーンストック）
阿座上 昌亮（とっとりゆかいな秋吉台ミーティング）
- 【理事】 笹岡 達男（(財)休暇村協会）
山田 朝夫（愛知県安城市）
白川 勝信（芸北高原の自然館）
熊田 章子（霧ヶ峰ネットワーク）
塩坂 邦雄（(株)環境アセスメントセンター）
- 【監事】 徳永 巧（真庭遺産研究会）
高橋 泰子（NPO法人 緑と水の連絡会議）

〒444-0071 愛知県岡崎市稲熊町2-120-805
「総合科学(株)愛知事務所」内
担当:小串重治(こぐししげはる)
電話/0564-47-7970 FAX/0564-47-7967
E-MAIL/greenfront-kogushi@nifty.com

全国 草原再生 ネットワーク

原っぱで
ねころがって
青空みれば
グリーンはじけ
いきもち

